

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりしたスペースで、その人が望む暮らしを実現したいと誠意と愛情を持って共に生活している。	ホール内に理念を大きく掲示し、週1回リーダーが復唱している。職員間で共有し、理念に基づいた声かけを日々行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内を一週りの散歩にでる。人通りも少なく、挨拶を交わすことは少ないが、外出「散歩」は、季節的な事もあり毎日ではない。天気体調をみて、散歩をしている。当ホームを、所帯主として町内会に入会し、会長さん民生委員さんにはイベントに参加していただくなど交流をしている。	GHなでしこ(2ユニット)一世帯として、町内会に加入し、地区のお祭り(とんど祭り、夏祭り等)や行事に積極的に参加している。また、近くのスーパーや郵便局等に出向き、地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の生徒さん(2~4人)をチャレンジワークとして受け入れている。(年1回3日間)活動報告で保護者の方のご意見もいただく事ができ活力となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営促進会議では、当ホームでの高齢者の生活ぶり、状況の報告などを行っている。又、地域の方々の情報もいただいている。(特に独居の方)今後の取り組みとしては火災、災害時協力体制も願って行きたいと思っている。	2ヶ月に一回、町内会長や愛育委員、地域包括の方々を交え、定期的に開催している。その際、地域の情報や取り組みについて議論している。また、月1回、介護相談員が来訪し、情報交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護法指定介護機関の指定を受け、福祉課の担当者の方とも密に連絡を取っている。又介護保険更新申請時や当ホームでの日常業務の中で積極的に相談し、コミュニケーションを図っている。又推進会議開催、グループホーム協議会参加など、行政だけでなく、他の事業所ともコミュニケーションを図っている。	ソーシャルワーカーと交流を図るため、月に一度は行政と関わりを持つようにしている。また、生活保護の方を受け入れており、成年後見人制度に関わる相談や連絡を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない・原則はしっかり守っている。玄関施錠については、交通量の多い県道430号線があり、危険を回避する支援が必要である。	玄関の施錠は行っているが、施設内での身体に関わる拘束については行ってない。職員は病院(母体)で行う研修会に参加し、拘束について深く学び、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けてはいるが、「ケア」に係わる「ストレス」「職場の人間関係」に係わる「ストレス」など、職員同士の相談により解消している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名成年後見人制度の利用となっているが無理なく関係は良好である。スタッフにもパンフレットを配り、情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に個々の立場に立って取り組んでいる。又、面会時その後のご家族のご様子などを伺い、納得、安心していただけるようにゆっくりと時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回の介護相談員さんの受け入れをしている。又運営推進会議を通じて、外部の人には伝えられている。又言うことをためらう御家族等に意見要望を出していただけるように玄関に用紙を準備し、簡易ポストに入れていただくように配慮している。又イベント参加を促し、利用者の方々の御家族の交流できる雰囲気作りにも配慮している。	玄関に意見箱を設置し、ご家族の意見を収集している。また、請求書を送る際、写真や手紙(ハガキ)を添えて日常の様子を伝え、面会(来訪)時に意見や要望を聞き入れている。月に一度、ご家族が来訪する機会を設けており、運営に活かす努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は面接の機会を設け、現場の職員の意見を尊重し、入居者の状況や実情を把握する事に活かされている。	気兼ねなく施設長や管理者と会話できる環境が整っており、日常的に職員と向き合っている。また、年一回、個人面談を行い、職員の様々な意見や要望、提案を聞きいれており、職場のチームワークにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階の管理者により、職員個々の得手の性質を生かし担当を決め、働く意欲、質の確保につなげているが、今後も面談での意見を考慮して行きたいと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会や社会福祉協議会からの情報に基づき、全ての職員が各自の立場、経験に応じた研修に出席できるよう配慮している。又研修したい内容も個々に意見をもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市GH協会に所属し、研修会、講習会などを利用して意見交換している。又、研修、講習の内容・感じたこと・今後どう生かすか・などレポート報告を回覧し、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際、ゆったりしたペースでご本人、御家族から今までの様子(生活歴、大切にされていた事など)環境の変化への不安など、出来るだけ多くお話していただけるようご家族にご協力をお願いし、バックグラウンドシートに記入を依頼している。又体験(おやつ、昼食と一緒に食べていただく、フローアで体感していただくなど)を入居前に2~3回程度お願いし、職員共々コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接以外にも密に連絡をし、御家族からの要望・不安などを収集し、その都度当ホームでの様子、普段の生活の風景、それに向けての対処方法などをお話し、ご家族の思いを受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、現在何が必要な支援か・・・?を考え職員全員で速やかに実行している。又ご本人に納得していただけるよう、徐々に支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日のうち入居者の方と和やかに談笑しながら過ごす時間を設けている。(食後のティータイムなどの時間)時折スタッフと一緒にドライブを楽しむなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでの日々の介護の中で、ご家族が関わること(一緒に買い物に行くなど)により、ご家族とご本人の距離を近くに出来ている。家族参加型の行事を開催し入居者の方と一緒に過ごしていただく時間を作っている。又衣料品の購入については、業者の方に来居を依頼している。修繕に関しては、職員が携わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内の支援がほとんどではあるがご利用者によっては近所の方、町内の方の訪問、面会がある。再来し易いよう心がけている。病院受診時、リハビリ通院時の知人との再会を大切にしている。	家族やご近所との関係が途切れない様、来訪時には食事をもてなしたり、お茶を出したりしながら、コミュニケーションを図っている。また、以前から通っていた美容院や施設へ出かけるなどして、関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の性格、相性、考え方、好みなどの把握に努めている。相手に対しての強い言葉を発すると思われるとき、職員はさりげなく、居心地の良い場所を判断し、導くよう努力している。平等である支援により、安心していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体の病院に入院退居の場合、日々の面会となる。他施設へ移行の場合は、その施設へ情報提供し、又その後の経緯を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、思いや意向を把握できるよう支援している。意思表示できない入居者の方には御家族とのコミュニケーションを密にし、カンファレンスにもご家族の参加を促している。又個別にゆっくりお話できるように考慮している。	入居者の思いや希望の実現に向けて、出来るだけ本人の意向や家族の要望を日常会話や家族来訪時の中から、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご利用者の所に出向き、面談を行う。又、当ホームに来居していただき、おやつ、昼食と一緒に食べ、生活歴、趣味、こだわりなどお聞きし、アセスメントを作成してゆく。バックグラウンドの提出もご家族に依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートを使用し、生活面・医療面問わず、心身状態も含め、スタッフにより記録されている。又変化があればその都度情報交換し、常に現状の把握に努めている。各担当者を決めることにより、より細やかな気配りを目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の状況、注意点(体調、意欲、動作全般)について、一人ひとりの記録を各担当者が、1~2ヶ月を随時記入し、他のスタッフに伝えられる様にしている。その記録を、介護計画に取り入れ、スタッフ全員でモニタリングを実施している。	担当制を取っており、日常から各担当職員が気づきを出し合い、それに基づいてケアプランを作成している。3ヶ月に一度見直しを行い、モニタリングもしっかりと行っている。積極的なカンファレンスを重ねることで、利用者の意向や要望に沿ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応したスタッフが24時間生活変化シートに記入し、情報を共有している。特に不安時は折れ線にて表現し、次につなげる努力をしている。又、申し送り、カンファレンスの際スタッフ間で意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面においては、リハビリ通院、受診、往診に随時対応している。又入院された場合、職員が1日に一回は面会に訪れ、声かけにより安心していただいている。ご家族の介護の軽減については、洗濯物等を持ち帰っている。生活面においては美容院への予約、送迎、ご家族への連絡、買い物なども要望に合わせ随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【ひな祭り、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会】などのイベントの際、ご近所のボランティアを招き、演奏を披露していただくこともある。小中学生の職場体験を通しての交流、近所のボランティアの中学生による「お茶会」なども開催している。又消防署の方にお申し、紙芝居、スライドなども見せていただき、避難訓練に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関に受診、往診、ADL向上については、リハビリ通院介助も施行している。又他医療機関(眼科、心療内科、歯科、皮膚科)にも自動車にて通院介助を行っている。	母体(医療法人)による受診・往診支援を行っており、24時間体制でサポートしている。また、各利用者のかかりつけ医や歯科においては、家族と相談しながら受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師一名を配置し、又協力病院による訪問看護を施行している。毎日10時に健康チェックを行い、変調者においては、看護師に相談のうえ協力病院に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関で、24時間対応の為、即入院できていることにより早期治療が行われている。又退院時も医師、看護師からの的確な指示により、早期退院に対応できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームが対応可能なこと、対応できないことの内容を入居時に説明している。又、状態変化がある事に御家族に説明し、ご家族の意向も大切にしている。又、看取りに関しての考え等を協力病院と共有し、必要が生じた際は主治医、看護師、ケアマネ、御家族と話し合い、書面にて同意をいただく事としている。	入居(契約)時、終末期における方針を説明している。母体のサポートあり、緊急時や重度化における対応も確立されている。また、管理者自ら看取りの外部研修会に参加し、学んだ事を職員へ伝えられている。職員一丸となり、緊張感をもって支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが、急変に対しては、迅速に対応。即母体の病院に搬送している。応急手当・初期対応については随時講習会への参加も考慮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1階では、中庭を避難路として確保し、災害に備え避難訓練も行っている。平成22年3月スプリンクラー、緊急通報装置を設置する。地域密着推進会議で町内会には協力体制をお願いし、一人ひとりの利用者の状態を把握し、避難誘導が出来るように備えている。	年2回、消防署の方を招いて避難訓練を行っており、内1回は、夜間を想定して行っている。また、スプリンクラーの設置も完了しており、今後、スプリンクラーを利用した訓練も視野に入れている。	町内会への協力依頼は出来ているので、今後、近隣住民が参加しての訓練に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場に立って、外用薬等塗布する時は、事務所に来てもらい、処置している。排泄に関しては自尊心を尊重している。排泄時は小さな声で耳うちし、さりげなくトイレに誘導して対応している。	職員は入居者を尊重しながら、何事にも一緒に共感・行動するように努め、また、入居者との距離を縮めて会話する事に取り組んでいる。プライバシー保護のため、居室入口に防炎のれんを設置する予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居当座は、帰宅願望が強い方には、十分な訴えを聞いて、明日へと話を向けると納得する人が多い。どうしてもと言う時は、家族と電話で会話してもらい、納得してもらうことも度々ある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内ばかりでなく、独歩の人にはスタッフが付き添い施設周辺を散歩、又、近くにあるスーパーでの買い物へ。車椅子の人にも同様である。季節・天候に左右されるが外出は心身ともに、活気の様子が見られる。出来る限り外出して色々な見聞きをしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容車が2ヶ月に1回来店あり。全員、ヘアカットやパーマでおしゃれする。ボランティアによる化粧の依頼も可能である。家族の持参する衣類からコーディネートしたり自分で可能な人にはアドバイスする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら食事の準備や後かたづけ等手伝って下さる方もおられる。食事は一緒に、同じものを味わいながらの支援ができています。調理職員が3食、個々の入居者の方々の好みの味・好物や偏食を知り、工夫、調理している。(だべられない物、大きさ、量なども考慮)	管理栄養士が食事メニューを作成し、入居者の能力に合わせて出来ること(下ごしらえや洗い物、配膳等)を手伝ってもらっている。また、食事を楽しめる様、家族から提供して頂いた食器や、季節感を感じる食材や盛り付けに工夫を凝らしている。	入居者の能力に合わせた食事対応に取り組んでいるが、入居者に選んでもらう場面(工夫)があるとさらに良いと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士による献立に沿って食事作りを調理職員が調理している。個々の摂取量、残量チェックなども24時間生活変化シートに記録し、情報共有している。摂取量の不足気味な時は、その方に合わせた飲み物、食べ物で対応している。又、形態も変化をもたせて支援している。又、1ヶ月に一度(月初め)の体重測定値を重視している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の歯磨きの励行、昼食後の口腔洗浄は緑茶で行い、口臭が消失した。義歯は、夕食後から朝食時までポリドント消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化により、時間を決めてトイレ誘導を介助する入居者の方々が増えている。パット内に失禁している人も多い。尿失禁のない人にも個々に合わせた排泄時間を把握し排泄を促している。体調により夜間のみ2名紙オシメ使用。入院時紙パンツ使用者も布パンツになられた方もおられる。自立に向けての支援を行っている。	入居者には出来るだけ布パンツを着用してもらうように支援している。失禁する入居者には、排泄パターンを熟知した職員が定期誘導し、自立に向けた支援に取り組んでいる。また、重度化した入居者にも、両手を支え、歩いてトイレ誘導するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの人が便秘がち、便秘薬での調整が多い。毎日記録して排便に気を付けている。一人ひとりに合った便秘対策は必須で内服・坐薬で対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当ホームが決めた曜日、時間帯に合わせた入浴が現状である。一人ひとりの体調、身体状況、意向をふまえ、順番の配慮、全介助、一部介助、見守り、各種の椅子(浴槽内、外、バスタチェア)など工夫をし、寛いだ気分で入浴できるよう支援している	週2回の入浴を基本としている。失禁した入居者に対してはその都度、清拭を行うようにしている。また、脱衣所を温めたり、入浴する順番や職員を入れ替えたりしながら、入浴が楽しめる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡・入眠も起床も自由でそれぞれのパターンがある。又、夜の睡眠途中での排泄の多い方もいるが、見守っている。ご本人ペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方々の既往歴については、ファイルに開示。薬の目的、副作用については、大まかに把握できるようにしているが、細微に関しては、看護師の指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声かけをして洗濯干し、たたみの手伝いを促すが、積極的に手伝ってくださる人もいるが、拒否される方もいる。又、季節の掲示物には、その季節に合った歌詞を筆で書いていただき、壁に掲示してレク活動の際、活用している。又、散歩、カラオケを好む人も多い。最近では、ロール絵作りを職員と一緒に楽しんでいる方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒い時期・暑い時期には外出を避け歩行運動は室内でしている。毎朝レクリエーションで手足の体操をする。(10分～15分)季節の良い時は、花見やドライブに出かける。ご家族との外出等も動いている。天気の良い日には、町内を散歩している。外出への感心度は高い。	天気の良い日には、ドライブや散歩をしてリフレッシュしている。また、家族が来訪した際には、夕食やドライブへの誘いを積極的に行っている。帰宅願望があれば、自宅に戻ったりするなど、なるべく入居者本人の希望に沿った外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化が進み、全員の方の金銭管理については、ご家族の要望により、当ホームが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物、年賀状の付き合いの出来る人は2~3人。自ら書けない人が、殆どである。また、本人希望で電話を取り次ぐことで安心して頂くよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を設け、ソファを置き自由に座られているが、必然的にそれぞれの場が決まってしまった。ワンフロアで入居者同士おしゃべりしたり、スタッフも中に入っているの会話を楽しんでいる。照明・温度・湿度を十分に管理し、良い環境の中で過ごされている。	外からの最適な日差しを取り入れ、季節にあった装飾を施すことで、明るくて居心地がよい空間となっている。各階に加湿器を設置し、温度・湿度管理を徹底して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを二箇所に分け、食卓の席を決めている。方法としては、身体の状態、性格、相性などを考慮して、意思決定を促している。又常に入居者の方々の表情、行動の変化にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃使っていたタンス小引だしなども持参。ソファ等設置して、ゆったり過ごせるようにしている。居室でも安心して落ち着けるようにしている。	馴染みの物や好みの物(花や置物、冷蔵庫等)が配置され、生活しやすいように工夫されている。また、畳の部屋もあり、入居者個々の生活スタイルにあった居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりを増やし、浴室の床も滑り止め施行をおこない、安心して入浴していただいている。		